

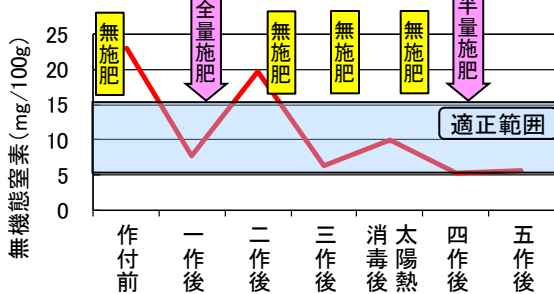
施設軟弱野菜及びダイコンの有機肥料の利用技術 (農林センター)

施設軟弱野菜（コマツナ、ミズナ、シュンギク、ホウレンソウ）の周年栽培及びダイコンで、菜種油かす等有機肥料を施用し、慣行施肥と同等の収量を得る技術を確立しました。

施設軟弱野菜(コマツナ、ミズナ、シュンギク、ホウレンソウ)

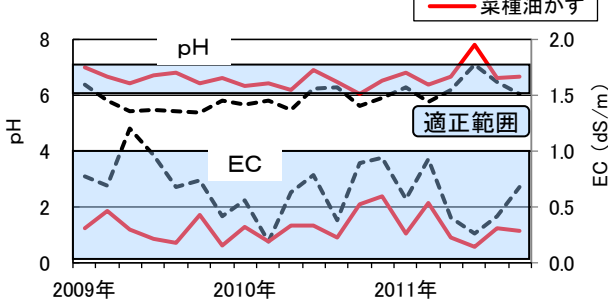
施肥基準量の菜種油かす・魚かす・市販有機配合肥料を施用して連作すると、土壌無機態窒素が蓄積するため、土壌硝酸態窒素診断に基づく減肥が必要です。

土壌無機態窒素の推移(コマツナ)



減肥しながら栽培すると、土壌のpHとEC(電気伝導度)は慣行施肥よりも適正に推移します。

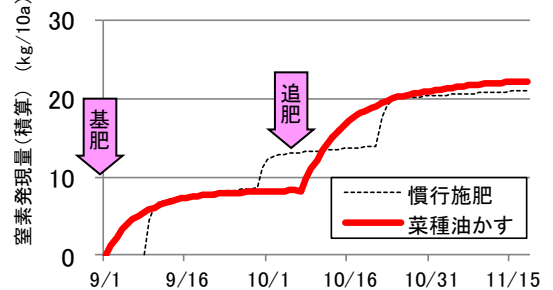
土壌pH・ECの推移(コマツナ)



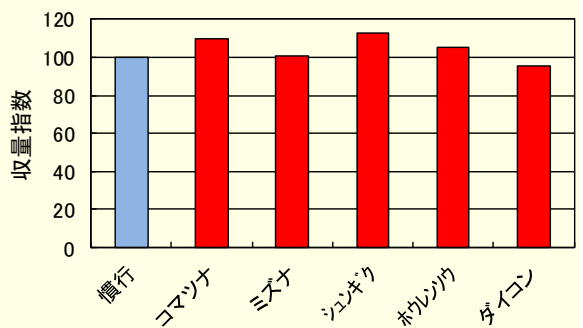
ダイコン

菜種油かすの施肥量(N40kg/10a)と施肥時期(播種前と播種1か月後)を明らかにしました。

地温による窒素肥効の発現シミュレーション



菜種油かすでの収量(慣行施肥=100)



収量は慣行施肥と同等です。

- 施設軟弱野菜では、菜種油かす等有機肥料を施用し、土壌硝酸態窒素診断に基づいて減肥することで、土壌pHとECを適正に維持でき、長期連作が可能
- 土壌ECは低く推移するため、ECではなく硝酸態窒素による土壌診断が必要
- ダイコンでは、菜種油かすを基肥と追肥(播種1か月後)として、窒素成分で20kg/10a程度ずつ施用
- 収量は慣行施肥と同等

- 施設軟弱野菜では、魚かすや市販の有機配合肥料も利用可能です。
- 施設軟弱野菜では、土壌診断により減肥しながら連作します。
- ダイコンでは、菜種油かすを慣行施肥より窒素として40%多く、基肥と追肥に分けて施用します。
- 堆肥は通常量を投入します。